

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



※
昭和46年、神殿移転建築以来、神殿を見守るバベガシ
(6月15日 大教会神苑で)

※別名：バベ・ウバメガシ(姥目樫)・イマメガシ(今芽樫)・ウマメガシ(馬目樫)。備長炭の材料として有名。

教祖130年祭に向かって

成人目標

おつとめ奉仕人の増員

立教175年
6月号

親が教えを實踐し

手本を示す

少年会縦の伝道講習会開催

少年会笠岡団(武内正美団長)は5月21日、諸井道隆先生(少年会本部委員・山名大教会長)を講師に迎え、大教会5月月次祭後に「縦の伝道講習会」を開催。役員、部内教会長、よふぼく、信者ら多数が受講した。

同団として本年のこともおちばがえり1千800人の帰参と全隊からの参加、また各教会での「おとまり会」の実践を目標にしている。



縦の伝道の大切さを話される諸井先生

講習会を通し教会活動の源となるよう開かれたもの。

諸井先生は、少年会本部の活動方針をもとに、自身の布教体験を通し縦の伝道は「育成会員が知識を教え諭すだけでなく、自らが教祖の教えを真っ正直に受けて日々実践し、陽気ぐらしの喜びを子供たちに映していくことが大切」と話されるとともに、教会おとまり会・少年ひのきしん隊・子どもおちばがえりへの参加を促された。講演要旨は次の通り。

●横の布教、縦の伝道は車の両輪

信仰の道筋はにをいがけ、おたすけによって人から人へと伝わっていく横の布教と、親から子へと伝えていく縦の伝道がある。これは車の両輪のようなものであり、親神様の目指される世界の陽気ぐらし実現には、この二つがしっかりとなされなければ成就されない。

横の布教は先人から延々と行われてきて、現在私たちもさせて頂いている。一方、縦の伝道は親の言うことを子供が聞いて通るのは当り前で、これが親孝行の道で信仰は自然に伝わっていくだろうと思われていた時代があった。

しかし現在、教会の後継者が定まらない教会が多くある。縦の伝道はどうしても欠かせられない

ものでありながら、非常に難しいことを改めて感じていたが、これから克服していかなければならない。

●信仰している姿を子供に映す

私は子供にどういう姿を見せているのだろうか。逆にどういう風に見られているのだろうかと思う時がある。

子供は自分の目と耳で感じて育っていくのだから、親の信仰している姿をしっかりと見せ、伝え、そして映していくことが大事だ。

おさしづに

もう道というのは、小さい時から心写さにやならん。そこへく年取れてからどうもならん。世上に心写し世上からどう渡りたら、この道付き難い。(明33・11・16)

●少年会本部の活動方針

活動方針は「ひのきしんの態度を映し、教えを実行する子供を育てよう」です。

これは少年会活動に限らず教会、家庭において子供たちに伝えるべきモットーです。

ひのきしんの態度を映すとは、神一条の精神を態度に表すこと、つまり損得とかあるいは近道を論せず信仰信念、喜びを行動に移すことです。

●信仰の喜びを映す

少年会の目的は「教えを素直に実行する」ということです。小さい時から教祖の教えにふれさせ、成長していくに従い信仰上のいろいろな事柄を教え躰けていくところに目的がある。

導く育成会員の立場からいえば、単に知識を教え諭すだけでなく、自らが教祖の教えを真つ正直に受け日々実践して手本を示し、その姿を子供に焼き付けて教祖の思召に則した陽気ぐらしの喜びを映していくことです。縦の伝道の鍵はここにあるのではないかと思う。

また、陽気ぐらしの喜びは、つとめとさづけにあると思う。

例を挙げると、ある教会の会長さんの身上を通して、かかわる人たちが心を一つにしておつとめをつとめさせて頂いた。残念ながら出直されたが、その姿をみて、いったんは道を離れかけていた後継者が教会を継ぐ決心をして下さった。

また、おさづけの取り次ぎにより、子供のことは親が一生懸命になって願い、子供は親のために願わせてもらうというように、家族が互いにたすけあい、繋りがとりもどせたこと、これも縦の伝道で繋つたものだと思う。

子供たちに信仰に参加させる機会、また、触れさせる場を持つことも大事です。

●活動の三項目

これは「教会おとまり会の継続実施」「支部でのひのきしん活動の実施」「わかぎ育成の取り組み」です。

子供たちが信仰に触れる機会を出来るだけ増やしていく。たとえば会長さんと一緒に生活し、会長さんの姿に接する。この活動として有効なのがおとまり会です。

今年で少年ひのきしん隊は創立40周年を迎えました。ひのきしんを通して子供たちに信仰を感じてもらおうというものです。こどもおちばがえりの時、お茶接待ひのきしん中「ありがとう」と言ってもらえることが一番嬉しかったというのが参加者の感想です。

わかぎというのは中学1年から3年生までです。思春期といわれ親の言うことを素直に聞けない年代ですが、大事な成長過程です。その間に、お道との関わりを持つことをしないと切れてしまうことがあります。ひのきしんを通して信仰の喜びを感じてもらおうというのが、先程の少年ひのきしん隊への参加です。隊員募集の上に力を入れて頂きたい。同時に、わかぎの育成は全教挙げて行って頂きたいのです。

最後に、こどもおちばがえりは、ひのきしんの喜びを子供たちに味わわせたいという思いから始まりました。その原点を思い起こし、今年のこともおちばがえりに臨んで頂きたいのです。

《以上要約》

新人事、辞令交附

大教会新人事(4月21日付発令)の辞令交附が5月21日、祭典後、神殿で行われた。

大教会長様は「役職にあたられた方々は教祖130年祭に向け、一手一つの心でつとめて頂きたい」と挨拶。その後、各部の部長・各掛の主任に辞令を渡された。



大教会長様より役職員に辞令が交附された

道の台として

おつとめ奉仕人増員に努力を

婦人会
おつとめ大会

婦人会笠岡支部(上原きよ枝支部長)は5月31

日、大教会で「笠岡支部おつとめ大会」を開催、

525人(受付数)が参加した。

教祖130年祭に向けておつとめ奉仕人の増員と、

婦人会の活動方針「おつとめに心を込める」ことを目指して開かれたもの。

午前は、神殿上段で婦人会員がおつとめ衣をつけて坐りづとめ、十二下

りのおつとめまなびの各

下りを各ブロックごとに

分け14交替でつとめた(12

ページに役割掲載)。

昼食後、挨拶に立った

上原きよ枝支部長は「大

教会創立120周年記念祭を

つとめ終えさせて頂き、

本年、総会に代わる何か

をと思っていたら、大教

会長様は教祖120年祭後か

ら130年祭に向けて各教会

のおつとめ奉仕人の増員



14交替でつとめられたおつとめまなび

をお打ち出し下さっていました。婦人会員も教会の台のなるべくつとめさせて頂こうと、今日のおつとめ大会を開かせて頂きました。

親神様が陽気ぐらしに近づけるため

に教えて下さったのがおつとめとおさづけの取り

次ぎです。今日つとめて下さったおつとめは教祖

の大きな親心が詰っているのです。そしておつと

めをつとめる人を増やしていくのは、私たちがた

すかるもとであり、多くの人にたすかつて頂く手

立てとなります」とおつとめ奉仕人増員に向けて

教会、家庭の台となるよう、また活動方針実行の

努力を呼びかけた。

引き続き、記念講演として宮崎

伸一郎先生(朝倉大・梅満分教会

長)の講話があった。

先生は自身の身上、またおたす

けを通し「おたすけをする時、そ

の時はうまくいかないかもしれない

いが、下手でもいい一生懸命たす

け続けることが大事。それを神様

は見えておられ、答は神様の世界。

私たちはあせってその答えまで見

たがるから、うまくいかないこと

が多いのだと思う。お道の話は楽

しいものばかりではないが、皆が

しっかりと前向きになって「たし算」をしていけば、必ず神様の喜ばれるような所に少しでも近づく心の成人というものが見えてくるように思う。前を向いて歩んで欲しい。そして一期一会を大事に、楽しみに通って下さい」と話された。

参加者はおつとめ奉仕人増員と、おつとめを通

し道の台としての歩みを誓い合い閉会した。

大会後、ピロティでバザーが行われ、収益金は

タンザニアに送られる。

同支部では、大会に向け三月からスケジュール、

各係など具体的な準備を進め、各ブロックごとに

おつとめ練習も行ってきた。

同支部委員は「上段でのおつとめは緊張感があ

り、つとめた人たちは喜んでいて。多少の間違

いはあったものの全体的には勇んでいて良かった。

宮崎先生の講話は各人の心に響き、今後の勇みの

種になれば大会を催した甲斐があった」と話して



ユーモアを交えながら話される宮崎先生

あらきとつりより

ひのきしん!

青年会

青年会笠岡分会は、おやさとふしん青年会ひのきしん隊、第783回隊(6月隊)に、9名で入隊。おやさと各所でひのきしんに当たっている。6月は、こどもおちばがえりの準備が主となっており、各会場のテント設営や、看板の制作、パレードスタンド設営などに汗を流している。また、ひのきしんの他、雅楽や祭儀式などの修練にも積極的に取り組み、笠岡分会独自で、回廊ひのきしんや、神名流し・路傍講演を行った。

おちばでの伏せ込みは、6月24日まで続く。尚、入隊者は、以下の通り。

中村剛史(久松)・上原繁次(陶山)・内海史郎(島中)・豊田宏哉(府中市)・中村元彦(照陽)・余村元(多古浦)・西村理人(吸江)・山口晃治(芳井)・佐藤真理志(陽實) (6月9日 上原記)



教会おとまり会の報告

▼笠尋隊

目的	少年会員が集まって、生かされてる喜びと日々の感謝を学ぶ
日時	平成24年4月28日(土) 17時~4月29日(日) 15時
御供	500円
参加者	少年会7名 青年会5名 婦人会7名 その他のようぼく5名
日程	4月28日 1日目 17:00 笠尋分教会に集合。 18:00 夕づとめ参拝。 18:30 夕食(カレー)。 19:00 おつとめまなび(鳴り物含)。 20:00 レクリエーション(ゲーム、トランプなど)、花火。 21:00 入浴、消灯。 4月29日 2日目 6:00 起床、洗面。 7:00 朝づとめ参拝。 30 朝食、朝食片づけ。 8:30 自由時間。 9:00 全教一斉ひのきしん参加。 11:30 昼食準備(手作りギョウザ) みんなで楽しく作りました。 13:00 昼食、片づけ。 15:00 れんげ畑で遊ぼう 解散。

所感 今年も青年会が中心となって、おつとめまなびやお楽しみ行事を計画しました。

今回はスポーツクラブの試合日程と重なり、少年会員の参加者が少なかったのが残念でしたが、全教一斉ひのきしんにも参加でき、とても実のある楽しいおとまり会になりました。

温故知新

いきいきエピソード 14

藤井宇三郎先生の事などなど

私の手許に三冊の書籍がある。故の大教会役員
の藤井幸男氏の手になるものである。

幸男先生は大教会史年表によれば、

大正3年2月9日 藤井幸男誕生(現笠岡大
教会承事)

昭和11年10月21日 藤井幸男 笠岡中教会青
年に任命

昭和14年5月19日 笠岡中教会長夫妻、八男
上原眞雄(5歳)・青年藤井幸男・草田静子を帯同
して台湾に向け出発

昭和18年10月22日 笠岡大教会人事で准承事
拝命

昭和24年1月21日 笠岡大教会人事で承事拝
命
となっている。

先生は昭和15年1月に台湾から笠岡に単身
帰って来られている。父・藤井宇三郎先生が危

篤状態だったので急遽帰って来られた。

この前後、中教会長の長男・道雄が戦死、又
大教会陸級があり、大教会にとっては、まこと
に多事な時であった。

藤井宇三郎先生は2月11日大教会人事で理事
を拝命され、2月15日75歳で出直されている。
幸男先生は約1カ月ほど枕辺におられた事にな
る。

さてその3冊の書籍であるが、
「いんねんなつしよう——入信五十五年間の藤
井の者達」(昭和64年7月)

「ページをめくる れんげの花」(平成3年12月
1日)

「ページをめくる きくの花」(平成4年3月1
日)

「れんげの花」の最初には次の言葉がある。
誰にはなそうか。／相手がおれば／話すだけ
で、／気分が発散するだろうに。／ひとり住ま
いでは、／心にもつのおきどころがない。
／しかたがない、／紙の上に／心のたけを／お
いてゆくか。／
「きくの花」の最初には、

誰かに話したい。／聞いてもらえば、／それ
で済むのに。／ひとり住いでは、／心にたまる
ばかり。／書いておけば、／誰かが見てくれる
だろう。／あてはなくても、／ひとりで記して
ゆく。／自分だけの気晴らしに。／よむ人があ
ればよい。／話し相手のつもりで、／同感して
下さればありがたい。／

「れんげの花」の中には、「タイワン」と題し
て5つの文章が記され、当時の台湾伝道庁の様
子、台北の夜店の賑わいなどが記されている。

「きくの花」には昭和63年頃から最後の文章
が平成2年となっている。

幸男先生は藤井家の長男であったが、台湾か
ら帰って来られてからは、大教会役員住宅から
出て三原市に定住された。しかし心は常に大教
会に向けて下さっていたようで、藤井家の入信
からの歴史を書き残して下さった事で当時の役
員家の状態がまことによく分かって有り難い。

しばらく、この三冊の内容を紹介させて頂く。
「きくの花」の中に「オヤジとおふくろ」の
一文がある。昭和62年4月の文章である。

「文春五月号のオヤジとおふくろは、エッセ
イストの青木雨彦と国語学者金田一春彦両彦先

生のものである。雨彦さんは、父にコンプレックスを抱いていたとあり、春彦さんは、母は父と結婚するんじゃないやあなかつた」と愚痴っていたとある。

私が父母(藤井宇三郎・ユウ)と一所に暮らした年限はどれくらいか。昭和十五年に父は七十五歳で死に、母は四十七年に九十三で死んだ。父とは十五年くらい、母とは六十年間を暮らした筈である。しかし父と同じ家の中で話し合ったのは、笠商時代位のもので、母とはそれ以外に終戦前後の数年間で、思い返しても意外に一所に暮らしていない。親子と言っても結局は、養育されている間だけの暮らしが普通なのかもしれない。(略)父は青年時代石工だった。握力は相当鍛えられており、片手の父に対して棒振りでは両手でやっても歯が立たなかった。座つたままの父に対して棒押しでも私は勝てなかった。私とは五十年の開きがあり、父は老人であった。酒は減法強く、幾ら飲んでもペケペケにはならなかった。碁将棋を父がしているのを見た事はない。歌や芝居の趣味は無かつたらしく、役者の真似や鼻歌など聴いたことはない。お酒が入って上機嫌のときでも、歌つたり踊つたりしたのを見た覚えはない。花など植えて育てる

のは好みの方であつたが、自分から手を汚したことはなかつた。家の裏の土手の肩に山椒の木を植えたのは父だったし、唐柿(いちじく)を植えたのも父だったのである。秋欄や日照草から朝顔を植えるのは母だった。父母とも農家の出だからこのような事には手慣れていたのかも知れない。父は不器用だったと今そう決められる。手先の小さな事で何か父が作ったのを見たことはないし、これを作ってくれたとゆう嬉しさの思い出がない。私が子供なりに箱とか木刀とか額縁など作るといつも感心していた。金槌の使い方とか、鉋の刃の出し方や、鋸の歯の立て方は詳しく説明してくれた。一応プロではあつた訳だ。」

ちよつと引用が長くなつたがもう少し続けたいが今回はここまでにする。藤井宇三郎先生は東城の奥、西城の栗という処の谷口家から縁あつて藤井家に入婿された。宇三郎先生の実父が亡くなられた時にはお帰りになつて近くの山に入り、墓石になりそうな自然石を探し出し運んできて戒名を彫り込まれたそうである。元石工の面目躍如というところであろうか。以下次号に幸男先生の文章に従つて、ユウさん(宇三郎先生の奥様)の事を綴りたい。(大教会理事)

笠岡大 全国大会出場 全教野球大会



全教野球大会(布教部文化体育課主催)の岡山地区予選が6月3日、矢掛町矢掛球場で行われ笠岡大(笠岡ワールドブラザーズ・平盛秀年監督)が東備分(東備SAWADEES)を2-1で下し5年連続全教大会出場を決めた。

笠岡大をはじめ岡山大、東備分、支部合同(岡山東・東部・倉敷)の4チームが出場。

笠岡大は初戦、支部合同を8-3で下し、決戦は前回同様東備分。2-1で接戦を制した。

同大会は10月28日から30日まで全国地区予選を勝ちぬいたチームがおちばに集結し優勝が争われる。昨年は東日本大震災のため中止。

笠岡大チームでは、野球を通しよふぼくの絆を深めようとメンバーの募集をしている。連絡は大教会まで。

修養科終了生の声



修養科三ヶ月を振り返って

高屋分教会 栗原 奈津美

私は、修養科へ入って、身上があっても事情があっても、最後まで困難にも負けず、何が起きてもあきらめないで挑んでいこうと思つて来させて頂きました。私も3年前に急性リンパ性白血病という血液のガンになりましたので修養科に行かせて頂きますという心定めをさせてもらつて、この度、修養科に来させて頂きました。病気のことを理解してもらえるか不安でしたが、クラスの皆様も先生も心配して下さったり、おさづけを取り次いでもらい不安な心がなくなりました。天理教の教えでは病いのもととは心からとお教え頂く様に分が身上を頂くような心の使い方をしていたので、神様から宿題を出して頂いたようなものです。本当に修養科生として、三ヶ月無事に通らせて頂いて大変有難く、生かされていることへの感謝でいっぱいです。これからも人を助けて我が身助かるの思いで通らせてもらいたいと思います。

いんねん寄せて守護する

芳井分教会 平井 明 芳

詰所に入所させて頂いた日、大教会長様より「親神様が皆さんを引き寄せて下された」と、お聞かせ頂きました。この事が少しづつ解りかけて参りました。私は会社で大勢の社員を抱え、高慢のかたまりで通つて来ました。ある時、突然会社も退め家族まで失い、会長様から節目の時であるからと諭され、修養科行きを心定めさせて頂きました。修養科ではお道の話聞いて、おつとめをして、みかぐら歌に、お手振り、鳴物を習得出来れば良いと、安易な気持ちでいましたが、そうではありませんでした。詰所にも、組にも身上者が多く、私が健康でいられる事のありがたさを痛感させられました。同じ組の内に末期の癌で死を覚悟の上で来られておられましたので組の皆様で早く良くなつて貰いたい一心で「お願いごとめ」を何度となくさせて頂きましたが出直しという結果となり、なんと衝撃な一ヶ月目の初まりでした。そして詰所の身上者の方へも、毎日の心配りは欠かせませんでした。その様な中、私が勇めるのは「ひのきしん」でした。特別ひのきしん、一ヶ月間の交通誘導、福祉課の車いすのお世話。境内掛の履き物係、千人風呂大浴場、百母屋青年会宿舎清掃、楽しい限りでした。神殿そうじではトイレそうじ

をさせて頂くのが、私の心を熱く燃えさせたのであります。詰所主任先生を始め、諸先生方は、この様な私を、をまたりの命様のごとくあたたかく包んで頂き、ありがとうございます。この先、親神様、おやさまの、用木として成人させて頂く心定めが出来ましたので大変有意義な修養科生活を送らせて頂くことが出来ました。

神様との約束

高丸分教会 谷本 圭子

私は今まであまり何も出来ないところから、あてもない、こうでもないと迷つたり、注意ばかりされて、その度に落ち込んで悩む……という毎日、この度修養科へ来させて頂き、色々学ばせて頂きました。おつとめは朝晩させて頂くことが出来、大変ありがたいなと思いました。私は頭が高く素直さが足りないため、どうしても、人の言うことを素直に聞けず、すぐに言い返してしまいます。「はい」と言えないというのが私の一番の欠点です。ですから、今後は頭を低く、すぐに何を言われても「はい」と言えるように、素直な心で通ることを、神様にお約束しました。そして三ヶ月無事に、修養科を終えることが出来大変うれしいです。

修養科生活を終えて

高丸分教会 谷本 明香音

修養科に入って、最初の一ヶ月の間は、三ヶ月間はとても長いのだなと思っていましたがいつの間にか二ヶ月目に入ってしまった、三ヶ月目に入ると、だんだん日が経つにつれて、思ったよりもはやく終わっていくので、お世話になった同じクラスの先生や教室のみんなや、同じ詰所の修養科生と別れるのは、少し寂しいなと思いました。そして私が来た当初よりも少し変わって来ていると皆に言われる様になり、自分では気付いていませんが、三ヶ月の間で、自分だつてやろうと頑張れば変われるんだなと気付きました。だから家に帰ったら、自分が修養科で変わった姿を見てもらい、家族からも、私が変わったと言われたら大変嬉しいです。私は修養科に行つて大変よかったです。心より喜んでおります。

仲間の出直し

葦陽分教会 笹尾 光孝

私は、修養科での三ヶ月間、同じクラスの仲間との出会いや、一つのある出来事があったことで変わることが出来ました。始め頃は、修養科に行つたとき、私は少しばかりですがやる気がありませ

んでした。しかし、組担任の先生から二番の組係の御用をさせていただくことになり、責任重大で嫌々の仕事でしたが、ある出来事があったて私は気持ちを変えることが出来ました。それは同じクラスでガンの身上を持つて修養科にいられた方の事です。病いが進行し憩の家に入院されましたが、私は、その人にどうでも助かってもらいたい気持ちになり憩の家は何回も行つておさづけをさせていただきますました。でも、その人は助からず出直されました。悲しくて泣きました。しかしこの事があつたおかげで私は成長出来ました。これからも出直しされた方を思い出しては人様に喜んで頂けるよう勇んで通つて行きたいと思いません。

修養科の思い出

亀田山分教会 松浦 シマ子

会長様から修養科を進められ、八十一才に成りましたが、息子からも強く勧められたので修養科へ行く決心をしました。いつも杖をついて、十メートル位歩くと休まなければなりませんので修養科では教室から食堂や神殿迄と長い距離を休み休み、毎日毎日必死で皆について行きました。ある日、突然、食堂迄一気に休む事なく歩きましたので、私自身そのときびっくりしてしまいました。

親神様の御守護を頂けたと思えました。おかげさまで修養科一〇一組の奇跡だと皆様に云われました。詰所の同室の四人も皆それぞれに不思議な御守護を戴かれました事をつぶさに感じ、頭が下がりました。始めに張り切り過ぎて身体を痛め九日程休み、おてふりとか、男鳴物とか練習が不十分でした。修養科生全員の鳴物の練習が講堂でありました。荘厳でした。私も拍子木をさせて頂き本当に修養科に來させて頂き良かったと今でも嬉しい気持ちで一杯です。家族も天理教の信仰はしていませんが、担任の先生や組係の方々が一生涯命修養科記念アルバムを作つて下さったり、Tシャツを作つて下さったのでその記念品も家族に見せたり、またおちばでの喜び事の話しも一杯聞かせて、天理教の教えが如何に素晴らしいかを語り伝えたいと思えます。



こころの詩

▼天理教道友社発行『天理時報』、「時報歌壇」「時報俳壇」より転載

▽笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させていただきます。おめでとうございませう。

6月3日付 海松ヶ岡分教会 西山いわおさん

若き日に觀し西洋の美少女に

また恋をして美術館出る

海松ヶ岡分教会 藤井光子さん

わが味を楽しみに待つ人あれば

桜もち作り春を届けし

福満分教会前会長夫人 福島悦子さん

草木のしげくのびきし雨の日に

利鎌^{とがま}研ぎをり背筋のばして

5月13日付^{あきかひ} 海松ヶ岡分教会 石川泰子さん

空岳^{あきかひ}を五月の風がころがせり

備中分教会 塩飽利子さん

一望の山まぶしかり新樹光

▼養徳社発行『陽気』誌六月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「清」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させていただきます。おめでとうございませう。

秀 詠 川島郷分教会前会長 香取敏子

八十路越え清き祈りの日々があり

▼表紙写真 (吉岡輝昭かさおか編集部員)

<教会長夫妻特別講習会について>

対象 立教169年(教祖120年祭)以降に教会長になられた人及びその配偶者
 日時 ・8月24日(金)・8月25日(土)・9月16日(日)
 ・9月23日(日)・9月25日(火)
 時間はいずれも午後1時~4時30分
 場所 本部第2食堂
 参加御供 1人 500円
 内容 講話、ビデオなど
 ※対象者には連絡あり

<会計部>

○本年度教費金を納入下さい。

<庶務部>

○真柱訓話集配布
 希望者は会計まで 1冊 1,300円

<布教部>

○こどもおちばがえり受入れひのきしん
 前期 7月26日(木) 昼~7月30日(月) 昼迄
 後期 7月30日(月) 昼~8月4日(土) 昼迄
 割当 前期6名 後期6名 各ブロック1名

○本部食堂ひのきしん

期 間 7月16日(月)～31日(火)

割 当 上下、府中市ブロック

○直属ひのきしん特別隊

期 間 12月1日(土)～20日(木)

<史料部>

○大教会史編纂について

- ・教祖130年祭までに大教会創立120周年迄のものを出版予定
- ・昭和46年～現在まで
- ・歴代教会長履歴を各ブロック担当者まで提出下さい。

<詰所掛>

○こどもおぢばがえり期間中、ドライヤー・小型冷蔵庫は使用禁止

<教養掛>

○一ヶ月の教養掛を割り当てられた方で、都合によりおつとめいただけない場合は、早目に教養掛主任(谷内)へ連絡して下さい。

<青年会>

○会員名簿提出について

・笠岡分会総会 11月4日(日)に向け、活動の充実を図るため提出をお願いします。

対 象 中学3年生～40歳までの男子

提出日 7月21日 神事所のボックスに入れて下さい。

<少年会>

○こどもおぢばがえりについて

全隊帰参と1800人の帰参を目標としています。

詰所での模擬店 ・7月28日・7月31日・8月2日

○少年会員雅楽勉強会(本部主催)

期 間 8月16日(木)～18日(土)

対 象 小学4年生～中学3年生迄

受講費 2,500円

○教会おとまり会研修会(本部主催)

期 間 8月27日(月)～28日(火)

会 場 高安詰所

受講費 3,000円

<学生担当委員会>

○学生生徒修養会(高校の部)

日 時 8月9日(木)～15日(水)

費 用 8,000円

願書には大教会長様の捺印が必要です。

8月8日、大教会より車が出ます。

▼婦人会 おつとめ大会 役割表

おつとめ係	胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり										地方	座りづとめ	東ブロック					西ブロック					福山					上		下	
										虫明好美	門脇郁子	支部長様	田中ますみ	今川佐智子	岡本弘子	高木孝子	三島照美	上原順子	谷内美知子			輝美濃	森本富美子	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須						
上原順子	門脇加津	岡崎和美	内海安子	田中つかさ	高田賀代子	武内正美	岡崎豊子	山野なつ	上原千枝子	虫明好美	門脇郁子	支部長様	田中ますみ	今川佐智子	岡本弘子	高木孝子	三島照美	上原順子	谷内美知子	輝美濃	森本富美子	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須								
陶山	島根	直	島中	福山	直	高屋	弥高山	上下	直	鴨方	島根	直	福山	直	湯田原	新山邑	陶山	谷内美知子	輝美濃	森本富美子	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須									
上原千枝子	常井三三三	杉原登喜子	片岡治子	谷内きよ	真鍋珠洲河	谷内百里佳	吉岡さわ	田中タカ子	三島美保子	劍持秀子	頼経知加	安斉美代子	森本洋子	吉岡道子	山本節子	藤井光子	崎谷眞佐美	谷内美知子	輝美濃	森本富美子	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須									
直	皆部	明石市	陽備	輝美濃	陶山	輝美濃	興明	鴨方	新山邑	照陽	鶴眞	直	海松ケ岡	興明	吸江	海松ケ岡	弥高山	輝美濃	森本富美子	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須										
西村由理子	小倉理恵	小玉好美	萩野恵美	香取律子	宇野園恵	三宅久子	三浦和美	枝廣孝子	仁井亨子	杉原美津枝	岡田玉江	仁科幸子	藤井ひろ子	萩原知史	樋上郁子	池平精子	岡田和子	森本富美子	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
吸江	川島郷	芳井	錦備	川島郷	鶴山	作備	照陽	金浦	吸江	明石市	備中	直	芳井	錦備	金浦	錦ヶ原	備中	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須												
高木孝子	岡初美	和田悦子	坂上佳子	小坂百合子	浅野芳子	横山千春	堀川豊子	金山武子	笹尾恵理	渡邊泰子	桑田恵美子	稲月稔恵	若井弘親子	渡邊いづみ	内海純子	高木孝子	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須												
湯田原	葦沼	神驛	神昭	神邊	葦陽	東城	湯田原	島中	東城	葦陽	神驛	神免	服部	神昭	島中	湯田原	服部	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
藤井さとみ	掛谷さつき	谷屋千夏	田頭憲子	掛谷キクエ	柴野年恵	三阪加奈子	石原妙子	新良貴玉恵	鳥井節子	江原昌子	西田満江	藤井靖子	藤井乃理世	原勝子	佐藤このえ	青山和未	佐々木喜久子	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
福富士	福昭	引野	福満	福南	福年	福岩	福東	福春	福勇	福昭	福節	福山	福東	福西村	福芦	福芦	福廣	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
枝廣陽子	永戸千代	宮本善子	松岡郁江	藤井さとみ	小寺敏子	田中美幸	佐々木さと子	藤田ミヨコ	枝廣久美	山本由紀子	枝廣都子	藤井理恵	宮本雅子	谷屋智子	福島友美	東浜博子	林眞理子	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
東福山	福芦	廣町	福節	福富士	福中	福輝	福廣	福順	東福山	福岩	東福山	福節	廣町	引野	福満	福順	福節	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
山野富美子	田渕智子	丸山哲子	岡田サカエ	時宗晴美	高田泰子	沖谷節恵	岡田秀子	冠野恵子	小西紀恵	田村扶美恵	原田志保	田中昭栄	桑本和子	池本理恵	武田光代	金本亜紀	丸山志津子	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											
上下	上備	木津和	清嶽	吉舎	眞府	行藤	上下	眞府	國須	上小島	上下	上小島	上吉野	上吉野	眞府	吉舎	木津和	福田明見	笠晴	福田明見	服部	福田多恵子	福山	藤本イツエ	西村	田渕壽子	上備	上小島	國須											

おつとめ係	胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり					地方			府中市	高屋	久松	島根				
										藤岡弘恵	原田和子	岡 邦子	出羽満子	亀田広子	井上トミコ	日下聡子	岡田アサエ					松谷静子	宇津戸	宇津戸	阿木行
山田 香	爲平郁子	山田佳余子	土井歩美	坂上ヤスコ	中島ツルエ	渡邊恵美子	山田 香	岡 紘子	友井利恵	藤岡弘恵	原田和子	岡 邦子	出羽満子	亀田広子	井上トミコ	日下聡子	岡田アサエ	松谷静子	六下り目	府中市	宇津戸	宇津戸	阿木行	三嶋浩子	佐藤喜代子
甲井	甲井	甲井	府中市	府中市	河佐	上父	甲井	上父	河佐	府世原	府世原	上父	河面	宇津戸	宇津戸	府中市	阿木行	宇津戸	七下り目	府中市	河佐	河面	重政康子	掛谷喜代子	三嶋浩子
武内博江	木村旬子	矢田路子	浜田節恵	秀平康子	三嶋 栄	矢田恵子	池田直子	掛谷公子	武内博江	宮本好子	三嶋千春	藤本恵子	北川美津子	重政康子	阿部通子	掛谷喜代子	三嶋浩子	佐藤喜代子	八下り目	高屋	高屋	高屋	坪生	坪生	坪生
高屋 尋	笠 尋	八 尋	坪生	高屋	笠 尋	八 尋	御野	坪生	高屋	惠 陽	尋 陽	惠 陽	稻 倉	高屋	坪生	坪生	笠 尋	御野	高屋	高屋	高屋	高屋	坪生	坪生	坪生
吉岡晴代	小川弘恵	吉岡志づえ	吉岡正美	原 コト	猪原恵み	重政弘美	猪原有理	林田美幸	吉岡明代	竹内理江	原 裕美	原 康江	貞清律子	武内まさみ	重政禎子	原 富貴	小川洋子	渡邊美恵子	八下り目	高屋	高屋	高屋	原 富貴	原 富貴	原 富貴
芦品	芦加茂	安那	安那	芦品	真金	仲 條	真金	三郡	芦田川	芦品	芦常	芦常	三郡	香地華	仲 條	芦常	芦加茂	香地華	高屋	高屋	高屋	仲 條	仲 條	仲 條	仲 條
北川 円	瀬藤正子	藤本裕子	藤井和子	三宅弘子	瀬良浩子	谷本道子	明石公子	葛間利美	瀬藤三幸	谷本圭子	山成恵子	藤本知加子	瀬良 恵	藤井保江	永戸千枝子	北川恵美子	大月智子	猪原ひとみ	九下り目	高屋	高屋	高屋	北川恵美子	北川恵美子	北川恵美子
稻倉	大恵山	東水島	稻倉	稻瀬	高児島	高丸	稻倉	大恵山	大恵山	高丸	稻富士	東水島	高児島	稻倉	稻倉	稻倉	稻倉	門司港	九下り目	高屋	高屋	高屋	稻倉	稻倉	稻倉
渡邊芙佐子	井上那奈子	村川かな江	中村美香	中村京子	荒木ちさこ	中村好江	佐藤多恵子	小池登美子	安原はつゑ	渡邊宣子	村川久美子	佐藤久枝	中村由美子	中塔鶴枝	釜江寿子	渡邊芙佐子	羽原澤美	下田茂美	十下り目	久松	久松	久松	釜江寿子	釜江寿子	釜江寿子
品治	呉福	大江橋	久松	久松	久松	久松	久松	久松	品治	品治	大江橋	呉福	久松	神村	久松	品治	久松	神村	久松	久松	久松	久松	久松	久松	久松
三代美音	御堂河内義	塩田善子	本多恵子	松浦真弓	福島里恵	西村總子	辻井万喜子	松田道子	鳥谷弘子	杉本悦子	安部由美子	津森まみえ	石川睦子	本多知代子	神門さと	山崎ふみえ	山根やよい	三代美音	十一下り目	島根	島根	島根	神門さと	神門さと	神門さと
雲東	米府	新輝豊	西伯	亀田山	瑞北	瑞雲	島根	弓ヶ濱	出雲	新輝豊	伯仙	簸ノ川	出雲	西伯	島根	出雲	出雲川津	雲東	十二下り目	島根	島根	島根	島根	島根	島根
福島里恵	吉田祥子	三代幸子	常松奈保子	余村有子	地頭和子	森川美雪	糸川久美枝	野津萬知子	高橋美砂	内田留美子	池口小夜子	仙田真美	三代由里	品川句記	若槻良子	福田玲子	三代もとい	中西与志子	十二下り目	島根	島根	島根	品川句記	品川句記	品川句記
瑞北	天場山	雲東	出雲	多古浦	米府	弓ヶ濱	松都	天場山	亀田山	照雲	米府	天場山	米美	多古浦	出雲	瑞北	雲東	亀田山	十二下り目	島根	島根	島根	多古浦	多古浦	多古浦

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいどううハみなわが子 かはいいゝばいこれが一ちよ」との親心のままに 天然自然のお働きを通して身体のお働きをお与え下さり 陽気ぐらしが出来るようにと御守護下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかるに世の多くの人々はその理を知らず 我が智恵や力によるものと思ひ誤り 勝手気ままな行いをして他の人々の心を傷つけそれが為に我が心も傷つけているのを知らず 苦しみにあえいでいます事は誠に残念でなりません 身上事情を通してこの道にお引き寄せ頂いた私共は 世界一列救いたいとの親心に触れ 少しでもその親心にお応えしたいものと 日々は朝に夕にとお礼申し上げて心の埃を払いつつ たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は五月の月次祭を取り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心も一人に明るく陽気に勇んで坐り づとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には旬の陽気に誘われ 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めてお礼申し上げます 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先月二十九日の全教一斉ひのきしんデーには晴天の御守護を賜り誠に有難うございました お陰により大勢の方々と共に喜び心一杯にひのきしんの汗を流させて頂きました 又今月は直轄巡教をさせて頂き 教祖百三十年祭に向け おつとめ奉仕人を一人でも多く御守護頂けるよう成人の歩みを進めさせて頂く事を誓い合わせて頂きました

そして本日は間近に迫ってまいりました子供おちば帰りに 将来のおつとめ奉仕人になるべき子供達に一人でも多くおちばに帰って頂けるよう縦の伝道講習会を開催させて頂きます しつかりとおちばの理を頂戴して募集に力を注いでいく所存でございます 又三十一日には婦人会によりおつとめ大会を開催させて頂き おつとめ奉仕人の増員のみならず育成の上にも力を入れて行く所存でございます

何卒親神様には明治二十年 世界ろくちに踏み均しにでられるべく 教祖の御身お隠しをなされてまでお急ぎ込み下された「おつとめ」の思いをくみ取り 「おつとめ」の充実を目指してたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 次々とこの道へ人々をお引き寄せ下さり おつとめ奉仕人が増進してお望み下さる陽気ぐらしの世の状に少しでも近づかせて頂けますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



1. 第4回タンザニア布教参加の経緯

▼海外布教の意義の確認(救援物資活動)・おさづけ

ついにこの日が来た！タンザニアに向けて出発するその日、関西国際空港で家族に見送られながら私はそう心の中でつぶやいた。

私の妻は既に私に先立って、二年前に上原志郎先生に同行しタンザニアの地を踏んでいた。発展途上にあるタンザニアの国を見聞し、また病に苦しむ多くの人々に尊いさづけの理をお取り次ぎしたことを、彼女は瞳を輝かせながら熱っぽく語っていた。そしてこれまでにない貴重な体験を通じて、その後彼女は信仰的に大きく前進したと私には感じられた。このような妻の変化を見るにつけ、異国の地においてたすけを求め多くの人々にさづけの理をお取り次ぎすることに、私の関心は益々高まった。実は十年以上も前から、私の義弟がメキシコの地でおさづけ一つで単独布教を展開していたことから、私は海外布教には以前より心惹かれていた。メキシコの村村でたすけを求めて長蛇をなす人々におさづけをお取り次ぎするといった類の異国の土産話を彼から何度も聞かされていたので、いつの日か私もそのようなおたすけをと夢見ていた。

もう一つ、タンザニア布教に同行したい理由として、自らの目で現地の現状を確かめたいというものがあつた。それは私たちが日本で声かけして集めた支援物資が、現地においてどのような分配されているか、そしてそれらは彼らのニーズに合っているものであるか、ということである。もしもそれらが適切に処理されなかつ必要とされているならば、以前にも増して日本での支援物資の収集に力を注がねばならないと思うのである。そして現地に届ける支援物資の収集活動は教内だけでなくどまるのではなく、近隣地域への協力要請の声がけに発展して、引いては自ずとお道のおいかけへと展開されていくことが期待される。

このようにこの度の私にとつてのタンザニア布教は、純粹な気持ちから教祖のお伴として難渋する兄弟へのおたすけのために異国の地に赴くというよりも、自らの信仰に糧を得たいという私心からの出発であつたように思う。しかし今現在御用を終えて帰国してみると、そのようなもやもやとした下心などはどこかにすつ飛んで行つてしまい、筆舌には尽くすことのできない、只只「務めさせていだいて本当に良かった、今後とも是非タンザニア布教に携わらせていただきたい」という心地よい余韻が残るのみである。何がそんなに良かったのか。次回より、拙い文章ではあるがその一端を綴つて皆さまにご紹介していきたいと思う。

(芳井分教会長 佐藤真孝)

大教会だより

◎第八五二期修養科

自 立教175年3月1日
至 立教175年5月27日

*教養掛

三ヶ月間 高木昭祥
(大教会準役員・湯田原分教会長)

一ヶ月目 藤井保人
(福東分教会長)

二ヶ月目 貞清知実
(三郡分教会長)

三ヶ月目 高橋徳行
(亀田山分教会長)

*修了者

芳井 平井明芳
葦陽 笹尾光孝
高屋 栗原奈津美
高丸 谷本圭子
高丸 谷本明香音
亀田山 松浦シマ子

◎教人資格講習会修了者

立教175年6月10日終講
いわき(布) 安斉和美

